

## 国土交通大臣賞（地域づくり部門）

### みつはま 三津浜地区にぎわい創出実行委員会（愛媛県松山市）

―― 空き家と空き店舗を活用し歴史と風情ある町並みを再生、移住者と交流人口を拡大 ――

#### ●活動の概要 「レトロな港町」を磨き上げ、新規出店に導く

- ▶著名な観光地である道後温泉や松山城等から離れ、空き家・空き店舗が目立つ地区だったが、歴史ある港町ならではの建築や町家等の風情ある町並みに注目。空き家・古民家の存在を活かしそれらを「町家バンク」にまとめ発信。平成25年度からの約8年間で75件のマッチングが成立。うち現在までに、出店57件・移住25件を実現。
- ▶地区内の空き家・空き店舗を「チャレンジショップ」「シェアショップ」に改装、新規出店・移住による新たなにぎわい創出を実現。
- ▶大正時代の「一銭洋食」をルーツに持つお好み焼きを、地区独自のご当地グルメ「三津浜焼き」としてブランド化。「全国ご当地こなもんサミット」を開催。その規模は年々拡大し、平成26年度～令和元年度の計6回で通算10万4,600人が来場するなど、食による活性化を展開。
- ▶YouTubeに「みつチャンネル」を開設。「食」「古民家」など、ジャンル別に制作した5本のプロモーション動画で世界に向け地区の魅力を発信中。



「町家バンク」でのマッチング・出店例  
（古民家をリノベーションした  
飲食店が開店）

#### ●選定理由 「歴史ある港町という地域的資源を再発見し発信、認知度向上・誘客・交流人口拡大を実現」

風情ある町並みを活かして、商店街の空き店舗や空き家の改装・整備に取り組むとともに、独立開業を促す仕組みにより、地区内への新規出店・移住を促進させることで新たなにぎわいを創出し、ご当地グルメをブランド化させ、毎年全国規模のグルメイベントを開催することで、地域内への食文化の普及と地域外への認知度向上を図るなど、地域の活性化に特に顕著な功績があり、総合的に高い評価を受けた。

■問合せ先■ 松山市 坂の上の雲まちづくり部 まちづくり推進課 ☎ 089-948-6942

## 国土交通大臣賞（小さな拠点部門）

### かすが 春日活性化委員会（佐賀県嬉野市）

―― 廃校になり放置されていた木造校舎をカフェに再生・住民交流の場だけでなく新たな産業創出も ――

#### ●活動の概要 「歴史ある木造校舎を再生、交流と産業創造の拠点に」

- ▶良質なお茶で有名な嬉野市の山あいにある春日地区で、140年もの歴史ある木造の分校校舎が荒廃し放置されていたが、地区外に居住しつつも同地区に縁がある人が市から校舎を借り受け、人が集う小さな拠点「分校Cafe haruhi（ぶんこうカフェ・ハルヒ）」として再生。現在は4人を雇用し、外部から年間5千人以上が訪れる場に成長。
- ▶地元地区の方々とは、月1回「むかし美人の会」という名称で、食事会・料理教室・旅行等の交流会を実施。「若者と一緒にアジサイを植えたい」など地区活性化のアイデアなども飛び出す。
- ▶その中から、耕作放棄の茶畑の実を集め油を絞る「茶の実プロジェクト」が地区住民との協働で開始。更に耕作放棄の田畑も8反復活させた。
- ▶更に現在は、茶の実油を使った化粧品の商品開発・イベント出店・ワークショップの開催、「茶の実」収穫の観光農園事業に展開。
- ▶ホームページやSNSにより、これらの活動を積極的に外部に発信中。



「むかし美人の会」による  
「茶の実プロジェクト」  
（地区住民が耕作放棄茶園の  
茶の実からお茶の油を抽出  
化粧品などに展開）

#### ●選定理由 「地区に関係性のある外部の人と地区住民とが協働し、内外の交流と更に新しい産業を創生」

春日地区を守るため、地元住民の思いに応え、140年以上の歴史を持つ元分校をカフェに改修し、地域住民と一緒に地区全体を盛り上げていく活動拠点として生まれ変わらせ、地区外から人を呼び込み交流を促し、地元高齢者の知恵を活かして、耕作放棄茶園で「茶の実」を収穫・搾油し、化粧品の商品開発を行うなど、地域の活性化に特に顕著な功績があり、総合的に高い評価を受けた。

■問合せ先■ 嬉野市 企画政策課 ☎ 0954-66-9117

## 全国地域づくり推進協議会会長賞 (地域づくり部門)

### 全国地ビールフェスティバル<sup>いちのせき</sup>—<sup>いちのせきし</sup>関実行委員会 (岩手県一関市)

--- 20年以上続く、地域内外の好循環・手作りの「地ビールの祭典」で地域の魅力を向上 ---

#### ●活動の概要 「地元関係者の連携の輪と全国のボランティア」

▶岩手県内には30余の酒蔵があったことから、岩手の地ビールを知ってもらうために始まった**ビアフェスの草分け**。

▶やがて、全国各地のブルワリーが一堂に会する「**全国地ビールフェスティバルin一関**」と全国規模に、令和元年度の3万3千人来場、ブルワリー69社参加。経済効果5億超の堂々たるイベントに。

▶酒造業だけでなく、農産物提供のJA、臨時列車で協力のJR、地元ケーブルテレビ局等、地域の関係団体が幅広く参画する**プロジェクト委員会**で企画・運営され、参加と連携の好循環が生まれている。

▶運営には、**全国各地からのボランティア**も参画し、宣伝も市外の「**いちのせきをまるごと応援し隊**」がSNSで地域の魅力発信。

▶その一方で「おつまみは地元の業者で」「お酒は地ビールに絞る」など、地域の価値創造・独自性にこだわり。

▶来場者へ廃棄物の分別を呼び掛け、環境の持続可能性にも配慮。



3万人以上を集客するイベントの実現には、地元の確かな協力体制とともに賑わいを支える 全国各地からのボランティアの存在感も大きい

#### ●選定理由 「幅広い関係者間の相互連携と全国各地からのボランティア、地域のこだわりとの調和」

豊かな水量の恩恵を受けて古くから酒造が盛んな地域の特性を活かし、全国各地のブルワリーが一堂に会するビアガーデンを開設し、県内学生や全国のボランティアスタッフの協力や応援を得て交流人口の範囲を広げ、地ビールの普及を図るとともに、地域の魅力発信に努め、関連産業の発展と地域の振興に貢献し、地域経済に好循環をもたらすなど、地域の活性化に顕著な功績があり、高い評価を受けた。

■問合せ先■ 一関市 観光物産課 ☎ 0191-21-8415

## 全国地域づくり推進協議会会長賞 (小さな拠点部門)

### HUB a nice d! (ハブ ア ナイス ディ) (鹿児島県瀬戸内町<sup>せとうちちよう</sup>)

--- 転勤族の「子育てママ」が地域の問題解決に「小さな拠点」を活用・女性の創業支援も ---

#### ●活動の概要 「転勤族子育てママの経験を活かした活動」

▶離島に転勤した子育てママが、育児や介護中など柔軟な働き方を求める住民や、I・Uターン者や移住希望者の経験や能力を活かす場として、県外の大学の学生の協力も得て、空き家の古民家を改築した**小さな拠点「HUB a nice d!**」を開設。

▶そこでは「**チャレンジショップ**」(飲食店・寺子屋学習塾)、「**コミュニティスペース**」(地域食堂・学生も交えた地域づくりミーティング)、ママが子連れで働ける・学べる場を創る「**レンタル/コワーキングスペース**」、など多用多彩な機能が展開。単なる交流拠点だけでなく、地域課題を解決・女性等が生き生き活躍できる新たなサービス・雇用機会も創出している。

▶転勤族のママや地元のママがチームを組んで、奄美イメージのエコバックの商品化に着手するなど、外と内との出会いによる価値創造。



飲食店がなかった集落に転勤族のママが「チャレンジショップ」を開業  
子育て支援だけでなくママさんの創業支援も

#### ●選定理由 「地域資源を活用・課題を解決しつつ子育てしやすく女性が生き生き活躍できる環境を創造」

地域住民の「子育てを楽しめる場が欲しい」という要望に応え、空き家古民家をリノベーションして、夢を叶える一歩を踏み出す場、多世代で地域が繋がる場、子連れで働き・学べる場、としての機能を持たせ、地元民と移住者の交流を深め、行政や大学からの応援や協力を得て、地域資源を活用しながら子育てしやすい環境を創ることに尽力し、地域の活性化に顕著な功績があり、高い評価を受けた。

■問合せ先■ 瀬戸内町 企画課 ☎ 0997-72-1112

## 国土計画協会会長賞

### シルバーふれあいサロン やまゆり (新潟県柏崎市)

--- 商店街にある75歳以上の男性が過半数という直売所・生き生きと接客・生き甲斐創造に ---

#### ●活動の概要 「シニアボランティアの活躍で人気の直売所」

- ▶市の中心部「えんま通り商店街」にある、空き店舗を利用した直売所「シルバーふれあいサロン「やまゆり」」では、毎日、新鮮な朝採り野菜が並ぶ人気の店。運営しているのは、半数が**75歳以上の男性**というボランティア157名。銀行や商社のOBも。
- ▶あえてレジを使わず「もぎり方式」による簡単な仕組みを採用、会員の互助で負担を減らしつつ、営業を軌道に乗せた。
- ▶会員が自宅で丹精込めて作った野菜、手作りの巾着等も並ぶ。
- ▶お茶を飲んだり会話のできるサロンを併設し毎日のように訪れる常連もいる。開店時には行列ができることもあり、**商店街の賑わいの核**となっている。
- ▶更には、遊休地や耕作放棄地を活用した「体験型農場」を作り、野菜を作ったことのないシニアの参加を促す。



開店時には行列ができるほど盛況な「やまゆり」  
商店街は若い人を中心に新規開業者が増え、  
空き店舗が消滅するほどの賑わいを見せている

#### ●選定理由 「年齢に関係なく活躍できる新しい生きがいの場を創出。特に高齢男性の元気な活躍に注目」

商店街の空き店舗を活用し、高齢者ボランティア会員が簡単に店番の出来る工夫「もぎり方式」を取り入れ、シニア層に絞った店舗運営により、商店街の振興とボランティアの生きがいを創出させたほか、耕作放棄地を「体験型農場」として活用し、障害者支援団体と協力して六次産業化に取り組み、地域内の経済循環を促進するなど、地域の活性化に顕著な功績があり、国土の利用・整備・保全等の観点から高い評価を受けた。

■問合せ先■ 柏崎市シルバー人材センター (担当: 青木事務局長)

☎ 0257-24-2148

## 日本政策投資銀行賞

### 株式会社元気アップつちゆ (福島県福島市)

--- 再生可能エネルギーで地域も再生 一石で三兎を追う温泉町復興のチャレンジ ---

#### ●活動の概要 「再生可能エネルギーで収益と観光・エビ養殖にも」

- ▶東日本大震災と原発事故により消滅が懸念された土湯温泉町。その危機感から地域づくり会社「株式会社元気アップつちゆ」設立。
- ▶再生可能エネルギーである温泉バイナリー発電に着目。発電利益だけでなく、排水を活かしてエビの養殖を開始。更に観光を兼ね、**釣り堀併設のコミュニティカフェ**を開業。視察研修者は年間2千人超。
- ▶再生エネの売電収入(約1億円(2016))の一部で、小学校の「給食費」「副教材費」の支給(廃校により現在は中止)、免許証返納者等へのバス定期券無料化など。
- ▶小水力発電や、構造改革特区で空き店舗跡に**どぶろくと果実酒(シードル)**の醸造所と販売所を整備。公衆浴場の指定管理による運営で年間約4万人が来訪。



地熱利用のバイナリー発電だけでなく  
エビの養殖・名産化、更に見学需要  
・観光化により交流人口・経済の好循環

#### ●選定理由 「地熱資源を活用した売電+観光+養殖など、SDGsを先取りした温泉地再生の挑戦に注目」

バイナリー発電事業による売電収益を、バスの無料バス支給などにより地域に還元するとともに、発電で使用する冷却水を再利用してオニテナガエビの完全養殖やエビの釣り堀カフェ運営、構造改革特区を活用した「どぶろく」や「果実酒」の醸造・販売により、地域の産業振興や雇用創出、交流人口増などに繋げ、地域産業の振興等の観点から高い評価を受けた。

■問合せ先■ 福島市 都市計画課 ☎ 024-573-4979

**DEJIMABASE (デジマベース)** (長崎県長崎市)

--- 「愛される場所」とするための、「小さなきっかけづくり」を継続 ---

●活動の概要 「足下の小さな活動で、改めて出島と市民を繋ぐ」

▶全国的にも知名度の高い出島エリアだが、多くの歴史的資源がある長崎市内では、市民にとっては従来関心の薄い地区。

▶そこで表門橋の建設を契機に、橋の関係者や愛好家が発議し、月2回、雨天でも欠かさず、出島の表門橋の拭き掃除等する『**はしふき**』活動を実施。(申し込み不要誰でも参加できる方式)

(のべ1200人以上参加)

▶他にも「DEJIMA AGAIN」のロゴ制作、オリジナルグッズ製作等、出島を意識させるPR活動を展開。

▶出島表門橋公園の**利用者発掘**や**利用申請を代行**する等により、多様な主催者による**出島宵市**や**デジノミ**等のイベントを支援。

▶会費徴収や行政の補助金等無しに、2018年からの3カ年で**77回**のイベント、**のべ1200人**の参加。改めて市民の「出島エリア」へ関心、愛着を惹起。「はしふき」は他地域にも広がっている。

▶出島に関連した記事や写真をFacebook、Instagramなどの**SNSを毎日・定時に更新し情報発信**。



第2第4月曜夕方、好きな人が集い雨天でも欠かさず行う「はしふき」活動。出島への愛着と関心を高める小さな活動が新たな交流や多様な活動を産み出した

●選定理由 「継続しやすい緩やかな活動が、交流を産み出し、市民の地区への関心と愛情を高めた事例」

出島エリアが「愛される場所」になるために、出島を愛する人達による任意の活動を継続させ、出島表門橋を雑巾で拭く活動「はしふき」では新たな交流や活動を生み出し、「表門橋公園活用サポート」では行政との強い信頼関係を築き、イベントの定期開催により認知度を広げ、市内で最も活用される公園に押し上げ、地域への店舗出店を促すなど、地域の活性化に功績があり、高い評価を受けた。

■問合せ先■ 長崎市 中央総合事務所 中央地域センター ☎ 095-829-1418

**松浦市** (長崎県松浦市)

--- 「アジフライの聖地」を目指して 協力店づくりや各種キャンペーンの展開 ---

●活動の概要 「当たり前の素材を磨き知名度アップを図る」

▶豊富な漁場に恵まれ、特にアジでは2015年から3年連続で水揚げ量日本一を達成した松浦魚市場を抱える松浦市では、「**松浦アジフライ憲章**」を掲げ「**アジフライの聖地**」であることを宣言。

▶職員が市内120店全てを回り協力要請。協力店20店舗を確保(現在では30店に増加)。それをもとに「**アジフライマップ**」を製作し、**年1回更新**している。

▶「鰯(あじ)」という字にちなみ、毎月第3「参」金曜日(=フライデー)を「**アジフライデー**」とし、市内の学校給食だけでなく、県庁レストラン、放送局や新聞社など官民のレストランで実施。

▶公募による「**アジフライに合うソース選手権**」を開催。

▶福岡の人気食堂や東京のアジフライ名店等のPR協力店の協力を得て、市外でも着実に認知度を高めた。

▶観光物産協会HP内に専用ページ開設、PR動画を作成。

▶2020年12月に「アジフライの聖地」の**商標登録**が完了。



松浦市長、アジフライの聖地松浦連携店、市内アジフライ製造事業者とともに「松浦アジフライ憲章」を唱和

●選定理由 「地域ならではの素材に磨きをかけ、多くの関係者を巻き込み情報発信した試みとして評価」

豊富な漁場に恵まれ、日本一の水揚げ量を誇るアジに着目し「松浦＝アジフライ」の定着を目指して、市内外の連携店を記したアジフライマップを毎年作成、アジフライデーには市内学校給食でアジフライを提供、ロゴマークやグッズを製作・販売し、地域経済を活性化させ魅力ある地域づくりに取り組み「アジフライの聖地」の商標登録を取得するなど、地域の活性化に功績があり、高い評価を受けた。

■問合せ先■ 松浦市 地域経済活性化課 ☎ 0956-72-1111 (内線271)

## パーフェクトビーチ・<sup>さとらみ</sup>里海ヘルスツーリズム推進協議会 (大分県豊後高田市)

--- 女性の嗜好に着目した、安全・清潔・快適な通年型のヘルスツーリズムの確立 ---

### ●活動の概要 「新たな観光モデルの創造と第6次産業化」

- ▶豊後高田市には、海・山・里・温泉・歴史など地域資源は多くあるものの、特色を活かしたブランド戦略が弱かった。
- ▶そこで、女性の嗜好に着目し、風光明媚な海岸道路を「恋叶(こいかな)ロード」と名付けたり、「花とアートの長崎鼻」のキャッチフレーズを付けたり、長崎鼻リゾートキャンプ場を核に「安全・清潔・快適な海水浴場(パーフェクトビーチ)」とし、海洋療法(タラソテラピー)と温泉療法のノウハウを導入し、海、温泉、健康食などの小規模な地域資源を新たな視点で統合させた。
- ▶地元産のひまわりの種子と無農薬カボスを使った「ウエルカムトリートメント」を開発。地元女性を中心に施術者の養成とレベルアップにも努めた。
- ▶サンドウォークやSUPヨガなどの健康体験プログラムを構築、地元の健康食材などを使用したメニューを開発、組み合わせ商品化を図った。



長崎鼻のひまわりで「ウエルカムトリートメント」を開発し海洋療法に活用  
自生する長命草などで健康食メニューを開発

### ●選定理由 「地域の資源と健康等のコンセプトを融合させ、通年型・滞在型観光を実現した点」

九州最大級の花公園「長崎鼻」のリゾートキャンプ場を核に「安全・清潔・快適」な海水浴場の整備、海洋療法と温泉療法の導入、ひまわりや長命草による商品開発により、海、温泉、健康食などの小規模ながら恵まれた地域資源を新たな視点で統合、魅力的な場所へと変貌させ、市全体の観光振興を促進させるなど、地域の活性化に功績があり、高い評価を受けた。

■問合せ先■ 豊後高田市 商工観光課 ☎ 0978-25-6219

ながしまちょう

## 長島町 (鹿児島県出水郡長島町)

--- 町民ぐるみの花壇活動で、美しい・協働の地域づくりを実現 ---

### ●活動の概要 「花壇づくりで住民の一体化・交流人口増大も」

- ▶長島町は2町が合併して誕生。そのため両町の融和を目指し、景観条例を定め、町全体が花で繋がれるよう、地域住民・団体が自主的に花壇管理を行う制度として、国道・県道沿いを花壇でつなぐ「フラワーロード」づくりを始め、花壇は約14Kmで10万本。
- ▶更には、花壇の管理者は、町が「サポーター」と呼ぶボランティアを公募し、町人口の1割以上の約1,400人が登録。住民同士の一体感が高まった。
- ▶花壇や道路法面の材料には、島で出土するも廃棄されていた天然石を使用し、100輪以上の「石の花」も設置。
- ▶これらの活動の結果、道路沿いの不法投棄も減り島の環境が改善。
- ▶メイン会場だけで30万本もの花が咲く「夢追い長島花フェスタ」では、延べ15万人が島を訪問。県内外からの視察も増えている。
- ▶「花カフェ」など花を核とした新しい産業も創出された。



長島の天然石を道路沿いの花壇や法面の材料に使用  
町内に100輪以上の「石の花」が咲く

### ●選定理由 「多様な人の輪を作った花壇づくりと、不要な材料を活用した石の花で景観も環境も改善」

合併した二つの町の融和や一体となった魅力あるまちづくりを図るため花に着目し、道路沿いに花壇を設置、町人口1割以上の住民・団体が自主的に管理し、出土・廃棄されていた天然石を道路法面の材料や「石の花」に活用、景観改善・道路沿いの不法投棄の減少に繋げ、町全体が会場の花イベントを実現させ、花を核とした新規産業を創出するなど、地域の活性化に功績があり、高い評価を受けた。

■問合せ先■ 長島町 水産景観課 ☎ 0996-86-1137